

令和6年度 南陽中学校 学校評価報告書

1、本年度の取組み

【学校教育目標】
夢と希望に向かって、共に自立できる生徒

【目指す生徒の姿】
1、授業、家庭学習に粘り強く取り組み、社会を生き抜く資質をはぐくむ生徒
2、人から信頼され、思いやりと感謝の心をもった生徒
3、互いに磨き合い、切磋琢磨できる生徒

【目指す学校像】
1、生徒が「安心して生活」、「夢をもち、頑張れる」学校
2、保護者に対して、信頼の絆でつなぐ学校
3、明るく元気な職員集団

2、自己評価

【生徒の評価】

| | |
|-----------------------------------|-------|
| 私は理想とする生き方や、やりたい仕事をもっている。 | 75.9% |
| 私は、まわりの人と良さを認め合える良い関係を築いている。 | 88.9% |
| 私は、自分が決めた目標に対してあきらめずに努力する。 | 78.3% |
| 私は、自分の学校や地域がよりよくなるように、考えて行動している。 | 73.0% |
| 私は、自分の得手(得意分野)を伸ばすように努力している。 | 87.5% |
| 私は、いじめ・暴力・授業妨害はしていない。 | 93.3% |
| 私は、南陽中学校が好きだ | 81.0% |
| 先生は、よくわかるように勉強を教えてくれる。 | 86.5% |
| 私は、睡眠(すいみん)時間を十分とっている。 | 76.1% |
| 私は、毎日、朝食をとって学校に登校している。 | 89.2% |
| 私は、すすんであいさつをするように心がけている。 | 91.8% |
| 私は、周囲の人に思いやりや感謝の気持ちをもって生活をしている。 | 94.7% |
| 私は、素直な気持ちで「ごめんなさい」が言える。 | 93.5% |
| 私は、正しい判断を心がけ、時や場を考慮して行動するようにしている。 | 92.5% |
| 私は、目上の方や地域の方に対し礼儀正しく接するよう心がけている。 | 94.9% |
| 南陽中は、だれもが安心して生活することのできる学校だ。 | 78.8% |
| 南陽中の生徒として誇りを持っている。 | 82.4% |
| 学校の中に悩みを相談したり助け合ったりできる友達がいる。 | 88.9% |
| 学校に悩みを相談したり、気軽に話ができたりする先生がいる。 | 70.4% |
| 家庭で学習(予習・復習など)をする習慣が身に付いている方だ。 | 56.4% |

【保護者の評価】

| | |
|---|-------|
| 学校では、基礎的な学力が身につくような分かりやすい授業をしている。 | 67.2% |
| 学校は、子供の興味や意欲を高める授業になるよう工夫している。 | 62.4% |
| 学校は、子供に応じた学習の手助けを行っている。 | 52.4% |
| 学校は、生徒一人一人を理解し、大切にしている。 | 72.3% |
| 学校は、いじめのない学校、学級、集団作りに取り組んでいる。 | 79.9% |
| 学校は、子供に命を大切に作る心や、社会のルールを守る態度を教えている。 | 81.3% |
| 学校は、三者面談や教育相談などが充実し、相談しやすい。 | 77.5% |
| 学校は、家庭・地域と積極的に連携・協力している。 | 76.7% |
| 学校は、たよりやホームページ、その他の方法で情報をよく発信している。 | 83.9% |
| 学校は、子供の安全確保や健康管理のための取り組みを十分行っている。 | 83.6% |
| 子供は、南陽中へ通うことが楽しそうだ。 | 83.6% |
| 子供は、家庭で学習する習慣が定着している。 | 49.2% |
| 子供は、定期テストに向けて家庭学習に前向きに取り組んでいた。 | 61.7% |
| 子供は、ゲームやTV、漫画に時間をとられすぎではないと思う。 | 42.3% |
| 子供は、部活動に目標をもって意欲的に取り組んでいる。 | 74.4% |
| 子供は、悩み事や相談事を気軽に話せる友達がいるようだ。 | 75.5% |
| 家庭では、子供のインターネットやメールなどの使用について約束を設定している。 | 80.5% |
| 家庭では、学校や友達のことなどよく会話をしている。 | 81.3% |
| 家庭では、できる限り、親子(家族)でいっしょに食事をするようにしている。 | 94.0% |
| 家庭では、仕事・生き方、将来の夢などについて話したり、子どもの考えを聞いたりしている。 | 91.5% |

【教職員の評価】

- ・行事を中心に頑張る生徒の姿がよく見られた。取組みの過程から行事の中で自分の役割を果たすことができた。その中で、他者との協力する姿勢、気持ちを汲み取る意識が高まった。
- ・帰りの会を15分にすることで、生徒に教師が語る時間を増やすことができた。生活や行事への在り方について生徒が考える場面が増え、社会的事象、学校の課題について当事者意識をもって取り組もうという姿勢が芽生えた。
- ・生徒会執行部の役割を通年にしたことで、ゆとりをもった生徒会運営が行われている。リーダーだけでなく、生徒全体で、計画性があり、安定した生徒会運営ができている。
- ・部活動の活動時間を縮小することで生徒が活動にゆとりをもてるようになった。
- ・いじめに関してアンケートを行い、認知を的確に行い、初動を素早く対応することができた。

3、学校関係者の評価

- ・学校教育目標や学校運営の基本方針について理解を深めることができた。地域と学校が話し合い、協議会として共通理解を図ることができた。先生方が明るく元気な職員集団で、生徒一人一人に真摯に向き合っていて下さっている。
- ・アンケートから多くの生徒が落ち着いて学校生活を送ることができている。学校・家庭・地域がそれぞれの役割を自覚、実践し、それらが相互に繋がり協働しながら子供たちを育てていきたい。
- ・生徒に自主的に学習する姿勢を身に付けさせたい。家に帰ってからの過ごし方や時間の使い方を家庭、地域、学校で話し合っていくことが大切である。
- ・今年度のいじめ認知件数は8件であり、解消したものは5件であった。学校職員がいじめ防止基本方針を理解し、早期の発見に努め、解決できるように取り組んでほしい。また、生徒がいじめについて考えられるようにしてほしい。

4、今後の改善方策

- ・テスト前や長期休みの際、生徒が自ら学習に取り組める姿勢を養うための取組みを行いたい。
- ・生徒が教科を好きになる授業の展開をすることで、生徒の学び続ける姿勢が育っていく。その仕掛けを行いたい。授業におけるICTの効果的な活用、協働しながら課題を解決する場面の設定を行いたい。
- ・生徒同士の繋がりが良い状態になっている。行事だけでなく、授業や帰りの会等での協働の時間を確保したい。
- ・学校行事に地域や保護者の方が入りやすい環境を整えたい。
- ・いじめについて考える機会を集会や授業を通して増やしていきたい。